

子どものコミュニケーション力を高める授業づくり

～新聞を活用して考えを深め発信する子どもの育成～

新潟市立東山の下小学校

1 学校の概要

東山の下小学校は、教育目標に「ひとつながりがんばりのきくしんせつな子ども」を掲げ、コミュニケーション力の育成に取り組んでいる。

中でも地域での活動を重視し、1年生は遊びを通して地域に親しむ活動、2年生は町探検を通して地域を知る活動、3年生はじゅんさい池についての調査活動を通して地域の課題に気付く活動、4年生は老人福祉施設や企業訪問を通して地域の暮らしを見つめる活動、5年生は通船川での体験・調査活動を通して地域の将来について考える活動、6年生は地域の先輩に生き方を学ぶ体験を通して地域貢献について志をもつ活動を行っている。

特に近年は「地域に貢献する教育活動」「命を守る教育活動」を重視し、その一環として防災・減災学習に取り組んでいる。過去4年間は、保護者や地域の方を対象に、津波からどのようにして命を守るのかを学ぶ授業を公開したり、地域の地形と予想される危険を専門家に学ぶ学習会を開催したりしている。今年度は、避難生活を想定して、地域住民と6年生が協働して学校で炊き出したアルファ米を学習会の参加者に届ける活動や、区役所および日本赤十字社との共催で避難生活を支える日用品や物資を紹介する展示会を行った。

これらの活動での様々なコミュニケーションを通して、児童は「自分の力を役立てて地域を守る」必要性を実感したり、「自分の命は自分で守る」態度を身に付けたりすることができた。また、この取組は、学校・地域・行政が協働して児童や保護者、地域住民の地域愛を高めることに有効に働くとして、継続して行うことに多くの方からの賛同を得ている。

2 NIE実践のねらい

当校は、コミュニケーション力の育成を重点目標に掲げており、NIE実践を重点目標に迫るための手立ての一つと位置付けている。3年間の研究指定を受け、次の3つの成長を目指して実践を行うこととした。

<児童の成長>

- ◎ 新聞を読むことが好きになり、文章を読み取る力、必要感をもって情報を収集したり話し合ったりする力、工夫して発信する力等のコミュニケーション力が高まる。

<教師の成長>

- ◎ 新聞を活用した学習への理解を深め、児童のコミュニケーション力を高める授業設計力や授業力、学校全体の言語環境をデザインする力が高まる。

<地域とのつながりの成長>

- ◎ 新聞を活用した学習を通して地域の人々との信頼関係を深め、協働して安心・安全な生活を築いたり自然環境を守る取組を行ったりすることができる。

3 本年度実践の概要

(1) 大規模校の利点を生かした実践計画

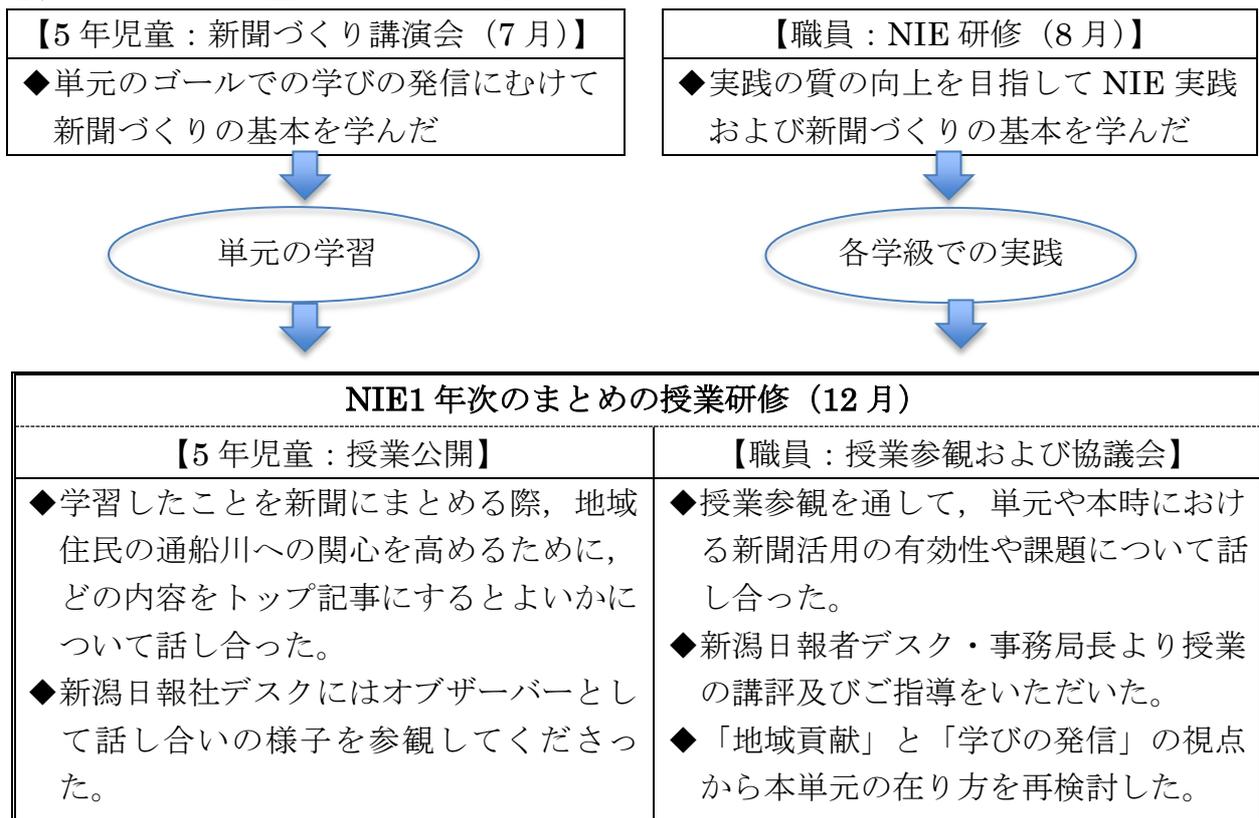
当校は、36 学級を有し、911 名の児童と 55 名の職員が NIE 実践に取り組んでいる。3 年間の実践校指定の初年度である今年度は、学校としての取り組み方を限定せずに、各実践者が自己の授業づくりや学級経営上の課題解決を目指して NIE 実践に取り組んだ。

2 年目以降は、1 年次実践を集約して得た成果と課題に基づいて研究計画を始めとする実践計画を整備し、重点目標や NIE 実践のねらいの達成に向けてより組織的に取り組み、東山の下小学校ならではの NIE 実践を展開する。

(2) まとめの授業研修に焦点づけた職員研修

当校の教育ビジョンでは、コミュニケーション力を育成する手段として「地域貢献」と「学びの発信」を掲げている。そのため、地域の課題を解決することをねらいとした 5 年生総合「通船川プロジェクト」の授業公開を「NIE1 年次のまとめの授業研修」に位置づけ、単元のゴールには、新聞をツールとして学習の成果を保護者や地域に発信する場面を設定して実践を行った。

本実践では、ゲストティーチャーおよび職員研修の講師として新潟日報社デスクを招き、新聞づくりの基礎や発信の質を高める方策等についてご指導いただいた。



(3) 新聞を活用した授業づくり

① 授業づくりの視点

ア 新聞活用の目的や方法を明確にする

単元や授業の目標を達成するために、「どの記事を」「どの様に教材化し」「どの場面で」「どのように活用する」とよいかを考えて授業を構想した。

イ 枠組みを明確にする

NIE の 3 分野のうち、どの分野での実践なのかを明確にして授業を構想した。

<新聞活用学習>

新聞を教材化し、内容そのもの、または、資料・情報として活用する学習

<新聞機能学習>

新聞をメディアとしてとらえ、新聞の特徴や制作の仕方などを学ぶ学習

<新聞制作学習>

学習したことや調べたことをまとめ、発信・伝え合い・交流活動を行う学習

② 各学年の授業研究

学年	教科	単元名	本時での活用の場面			活用対象	新聞活用の分野		
			導入	展開	終末		活用	機能	制作
1年	図工	「のってみたいな いきたいな」		○		写真	○		
2年	国語	「かたかなでかくことば」	○	○		記事/広告	○		
3年	総合	「じゅんさい池プロジェクト」	○	○		記事/写真	○		
4年	総合	「エコエコ大作戦」	○	○		記事/写真	○		
5年	社会	「米づくりのさかんな地域」	○	○		記事/図表	○		
5年	社会	「自動車づくりにはげむ人々」	○	○		記事/写真	○		
5年	総合	「通船川プロジェクト」	○			記事/写真	○	○	○
6年	国語	「資料を生かして呼びかけよう」		○		記事/図表	○		
6年	社会	「平和で豊かな暮らしをめざして」	○			写真	○		
6年	総合	「共助 私たちにできること」	○	○		記事/写真	○		
特支	自立	「楽しく過ごすために」		○		記事	○		
特支	国語	「ふじ5組新聞を作ろう」	○			写真/見出し	○		○
特支	生単	「水上バスで行くみなとびあ」	○		○	写真/見出し	○	○	○

※1 導入での活用→課題設定や課題把握、考える意欲付けを行う手立てとして活用

※2 展開での活用→考える対象、考えもたせたり考えを深めさせる手立てとして活用

※3 終末での活用→考えの補完や考えを適用する対象として活用

(4) 新聞に親しむ環境づくり

① 各学級の実践

教師による読み聞かせや朝の会の日直スピーチでの紹介など、学級ごとに場面や内容を工夫して記事を取り入れる取組を行った。特に、学習や生活に関連する記事、季節や行事に関連した記事、地域に関する記事や話題のニュースについての記事を積極的に取り入れるようにした。

全学級に新聞コーナーを設け、読み聞かせをした記事や授業で使った記事を掲示したり、児童が制作した新聞を展示したりした。

② 特別教室での取り組み

図書館に新聞を読めるコーナーやバックナンバーを保管するボックスを設置した。

また、図書館、理科室、音楽室、保健室に新聞掲示コーナーを設け、各担当者が学習や生活に関連したお勧めの記事を紹介した。

4 実践例

(1) 各学年・学級の実践（資料を補完して来年度以降も活用するものを中心に掲載）

学年	教科等	新聞活用の実際
1年	国語	「ことばあそびうたをつくろう」で川柳のイメージを持たせるために参考作品としてジュニア川柳コーナーの川柳を活用
	図工	描く対象について発想を広げるために記事と写真を活用
		絵の背景の参考になるような写真を紹介
	学活	交通安全の指導で活用。記事の内容を分かりやすい言葉で説明
夏休みの自由課題について指導する際に自由研究の例を紹介		
2年	国語	片仮名探しの教材として使用
	図工	新聞を切ったり丸めたりしての造形活動「新聞となかよし」を実施
	学活	新しい年を迎え自分の将来の夢について考える際、東山の下小5年児童が空道全国大会で優勝した記事を活用
		1年のまとめとして「さよなら2017年新聞」を書く際実際の新聞を使って新聞のつくり（題字、イラスト、写真、レイアウト）を説明
3年	理科	「太陽とかげ」で学習と関連した記事を紹介
		学習への関心を高めるために、乾電池についての記事を紹介
		学習の発展として「風のはたらき」で帆船を、「ゴムのはたらき」でモチックスを紹介
		「中部電力電気子どもシリーズ」の記事をプリントアウトして紹介
	音楽	「お囃子づくり」で意欲喚起のため祭りの様子を紹介した記事を活用
	総合	「じゅんさい池プロジェクト」で考えを持たせるきっかけとして他地域（イモリ池）の例などを紹介
4年	国語	「わたしの考えたこと」で意見文を書く際、文の構成を考えさせるために新聞に投稿されていた小学生の意見文を紹介
	社会	「災害からまちを守る」の学習で消防署見学をする際、意欲付けや予備知識をもたせるための事前学習で、「消防署員の一日」の記事を紹介
		交通事故について、毎日起きていることに気付かせるために活用
		「消防署員の一日」の記事を紹介し、『災害からまちを守る』の学習で校外学習（消防署見学）の事前学習として活用
		県産品の学習で、新潟の特産品として枝豆の記事を紹介
	算数	概数や面積の単位 a ha km ² などが身近なところで使われていることを紹介
	総合	ブラインドウォーク後に、新潟駅で視覚障がいのある方がホームから転落した事故の記事を紹介。
	総合	年代別好きな昔話ランキングの記事を、デイサービスセンター訪問活動に活用
学活 国語	給食指導で、食への関心を高めるために新潟の枝豆の記事を活用 「新聞記事を読み比べよう」記事に見出しを付ける練習場面で活用。	

5年	社会	米づくりの品種改良について調べる学習の導入で、事実を知らせるために、新之助の記事を活用。
	社会 家庭	「工業生産を支える人々」で、課題の把握を確実にさせるために自動車部品工場が中越沖地震で被災した記事、「イギリスでガソリン車販売禁止 2020年」の記事を活用
		ジャガイモ料理のレパートリーを増やすため、新聞に有用な情報が掲載されていることに目を向けさせるために「ふむふむ」を活用
	体育	安全に関わるスキルを高めるために「着衣泳」の記事を紹介
	総合	<ul style="list-style-type: none"> ・「通船川プロジェクト」で、過去の記事から広く情報を得るために活用 ・活動を通して得た情報の中から、相手意識をもってトップ記事を選択する話し合いを活動を実施。
6年	国語	「新聞の投書を読み比べよう」の導入で、読者による投書欄を複数読み聞かせて紹介
	社会	話し合いのスタートをそろえて児童に考えをもたせるために「長岡空襲」の記事を紹介
		戦争中、戦争後の生活について理解させる際、記事を拡大して教科書の写真や資料と一緒に活用。
	図工	ジュニア展に入賞した作品と審査員の講評のページを紹介
	音楽	音楽の要素の学習で「ラップの言葉弾丸放つ」の記事を活用
	体育	水泳授業の事前指導として、クロール泳法のコツの記事を紹介
	道徳	「社会のきまりやマナーを守ること」で補助教材として記事を活用
		日報の投書欄に小学生が投稿していた関連記事を使用
	総合	防災授業で「共助」としての取組の例を紹介
		修学旅行の事前学習で、佐渡金山、矢島・経島、世界遺産に向けての取組を紹介
特活	学級目標を検討する際、読者による投書欄を活用	
特別 支援 学級	国語	実際の新聞記事を活用して記事に合う写真はどれか話し合わせた。この学習を、新聞作りで自分の記事に合う写真を撮る際に活用
	社会	県名を当てるクイズづくりに記事を活用
	図工	「ふむふむ」の恐竜カードを切り抜いて、オリジナルの恐竜カード作りを行った
	生単	学習の資料として「怒りのコントロール」「なわとびの上達法」などの新聞記事や四コマ漫画を紹介
	学級	日常生活で指導したいことに関する記事があるときに紹介。（「ありがとう」と言えるようになってほしいという代わりにありがとうの言葉に付いてのコラムを紹介するなど）
	自立 活動	将来、自分がしたい職業に関する記事を紹介した。

(2) 新聞を活用した「地域貢献」と「学びの発信」の実際

<学年> 3年

<教科（単元名）> 総合的な学習の時間『じゅんさい池プロジェクト』

<新聞活用場面>

じゅんさい池のジュンサイを守るために、「特定外来種を駆除すべきか」「駆除するとしたら生け捕りにしたカメをどうするのか」「スイレンを駆除した場合他の生態系に影響はないのか」といった問題の解決策を、新聞記事に紹介された他地域の取組から探った。

<成果>

調べて分かったことや、じゅんさい池の環境を守るために考えた取組を整理し、ニュース番組形式、クイズ、劇など発信の方法を工夫して、保護者やお世話になった地域の方に伝え、参加者のじゅんさい池への理解を深めることができた。



<学年> 4年

<教科（単元名）> 総合『バリアフリー時代の一員として』

<新聞活用場面>

デイサービスセンターを訪問して読み聞かせをするために、「年代別好きな昔話ランキング」の記事を活用して、どの話がふさわしいかを考えて、本や紙芝居を選んだ。

<成果>

デイサービスセンターの入所者の方々が、子どもたちの訪問を大変喜び、歓迎してくださいました。子どもたちは、そのことを相手意識をもって本や紙芝居を選定して訪問した結果として受け止め、自己貢献感をもつことができた。

その後も、ランキング記事に着目したり必要な情報を新聞から得ようとする姿が確認できた。



<学年> 5年

<教科(単元名)> 総合『通船川プロジェクト』

<新聞活用場面>

新聞制作のスキルや心構えについて新聞社デスクより指導を受けた。過去の新聞記事から情報を収集した。特に、地域における通船川の役割や人々の生活との関わりを異なる立場から捉える学習の教材として活用した。

<成果>

単元の終末には、調べたことをもとに、これからの川との関わり方についての提案をまとめた新聞を制作した。区役所に展示したり町内に配布したりして、地域住民の通船川への関心や地域の環境を守ろうという意欲を高めることができた。



<学年> 6年

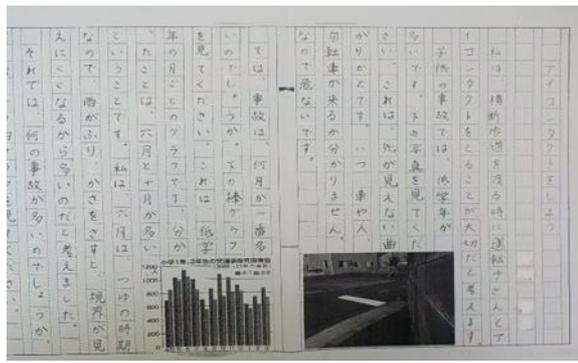
<教科(単元名)> 国語『資料を生かして呼びかけよう～交通安全～』

<新聞活用場面>

当校児童に交通安全の呼びかけをするために、どのような資料を用いると説得力のある呼びかけになるかを考える際、学年別の事故数や月別の事故数のグラフを活用した。また、記事における写真の効果や使い方について検討した。

<成果>

子どもたちは自分の住む地域の危険箇所を納めた写真と、自分の考えを伝える上で有効に働く資料を選択して交通安全を呼びかける説明文を書いた。低学年の交通事故を防ぐねらいから、発表の場を就学時検診および新入学説明会とし、保護者の交通安全への意識を高めることができた。



5 成果と課題

(1) 成果

① 子どもが新聞を学習の資料と捉え、活用するようになった

新聞の読み聞かせやライン引きなどを通して文章を読み取ったり，記事や写真・図表などから必要な情報を取り出して活用したりする態度が形成された。

② 全校体制の取組を通して新聞活用の効果が明らかになった

研究授業および日常の授業において，55名の実践者が自己の授業づくりや学級経営上の課題解決に向けて実践に取り組んだ。その結果，100を超える実践例が報告された。その結果から，新聞の活用について以下の点が明らかになった。

- ◇ 教科・領域を限定せずに教材として活用できること
- ◇ 主たる教材（新聞の仕組みや記事の構成を知る教材，その時代を反映する記録資料等）としても補助教材としても活用できること
- ◇ 導入での活用は，学習への興味・関心を喚起し高めたり，学習課題の設定・把握を的確に行ったりする上で有効に働くこと
- ◇ 展開での活用は，考えをもたせたり深めたりして学習課題を解決する過程だけでなく，学習したことを確認したり，基礎的・基本的事項の定着を図ったりする学習にも適していること
- ◇ 終末での活用は，学習をまとめたり，視野を広げたりする過程で有効に働くこと

③ NIE 実践を通して地域との結びつきを深めることができた

今まで行ってきた活動に新聞を活用した学習を取り入れたことで，児童に，より現実的に即した地域貢献の考えをもたせたり，発信の質を高めたりすることができた。

(2) 来年度の重点的な取組

① 授業で新聞を活用する目的や方法をさらに明確化し教育効果を高める

今年度の実績を基に，新聞活用を単元配列表に位置付け，見通しをもって実践する。また，新聞の活用の仕方が授業目標の達成度に大きく関わることから，授業の計画段階で活用の方法を十分に検討して実践を行う。特に，今年度実践数が少なかった授業のまとめや振り返りと関連付けた終末での活用のあり方を検討する。

実践終了後は，指導案・教材・児童の作品・実践のまとめ等をデータ化して保管できるようにし，いつでも活用できるようにする。

② 新聞活用の教育効果を評価する方法を定める

学校評価において，「NIE 実践のねらい」に掲げた，「児童の成長」「教師の成長」「地域とのつながりの成長」を項目を設けて評価する。

授業実践段階では，「どの記事を」「どの様に教材化し」「どの場面で」「どのように活用した」ことが，どのようなコミュニケーション力の育成につながったかを実践のまとめに明記する。

③ 学年で協働して日常活動に取り組む

今年度は，各実践者個人の計画を優先して日常活動に取り組んだ。次年度は，各学年で取り組み方法を定めて実践し，子どもの姿が見える「東山の下 NIE 実践」を推進する。